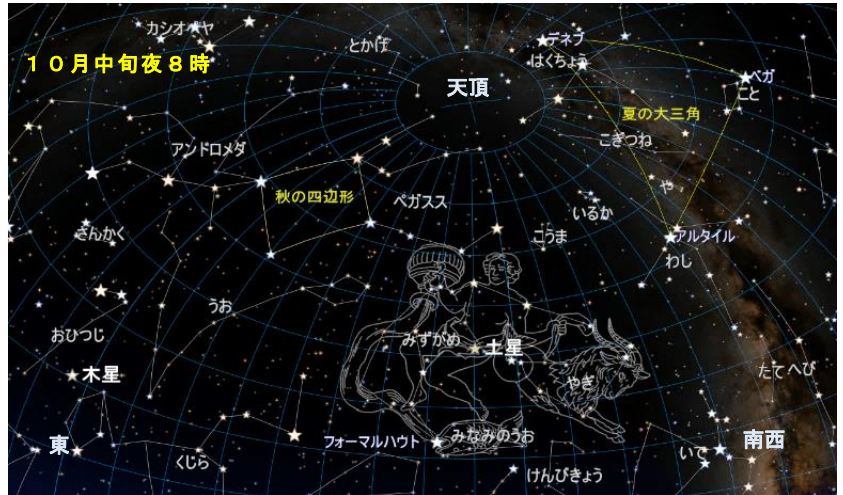


ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

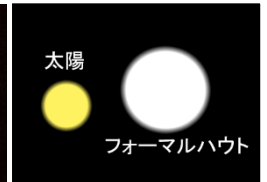
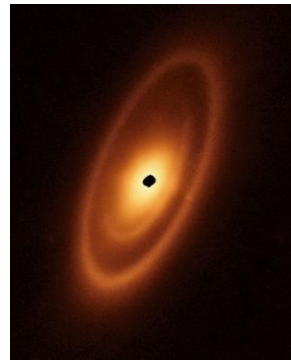
10月中旬夜8時頃の星空には、天頂を挟んで、西に《夏の三大角》、東に《秋の四辺形》が見えています。そして、南の空には大きな「みずがめ座」、下には「みなみのうお座」、その右側には「やぎ座」と秋の星座が広がっています。この3つの星座に囲まれた中央には、0.6~0.7等の土星が輝いています。秋の星座は比較的暗い星ばかりですが、南の低い空にぼつんと1つだけ1等星があります。〈秋の一つ星〉や〈南の一つ星〉と呼ばれる、「みなみのうお座」のフォーマルハウトです。フォーマルハウトはアラビア語で〈南の魚の口〉という意味で、そのすぐ上の「みずがめ座」から流れ落ちる水を受け止める魚の口として描かれています。星座線も「みずがめ座」と結ばれていますが、神話においては、フォーマルハウトも「みなみのうお座」も、「みずがめ座」とのつながりは特にありません。ギリシャ神話では、「みなみのうお座」は、怪獣テュフォンに追われた女神アフロディテーが魚になって逃げたときの姿だといひ、また、「うお座」の2匹の魚を生んだ親魚だという説も伝えられています。



★ みなみのうお座 α 星「フォーマルハウト」

星の名	フォーマルハウト
星座	みなみのうお座
明るさ	1.2等級
距離	25光年

フォーマルハウトは太陽系から約25光年の位置にあり、誕生してから4億年ほどとされる若い恒星です。白く輝くその表面温度は約8,000度。質量・直径ともに太陽の2倍弱ですが、明るさは太陽の約16倍もあります。1980年代に、フォーマルハウトの周囲には、岩石や氷のカケラや塵でできた円盤があることが発見され、以来、世界の天文学者たちによって観測・研究が続けられてきました。2000年代に入ると、ハッブル宇宙望遠鏡が塵の環を撮影し、2017年にはアルマ望遠鏡がフォーマルハウトの外側を取り囲む塵のリングを捉えています。そして、今年2023年5月、ジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡が捉えた最新の画像が公開され、塵の円盤は、フォーマルハウトを中心に3本の帯になっており、約200億kmも外側に広がっていることが明らかになりました。この3本の帯の構造から、まだ見つからない惑星があるかもしれないと考えられています。



←塵のリング：フォーマルハウト本体は明るすぎるのでかくしてあります
Credit NASA, ESA, CSA, A. Pagan (STScI), A. Gáspár (University of Arizona)

★ 細い月が金星に接近！

※星図はステラナビゲーター11を用いて作成

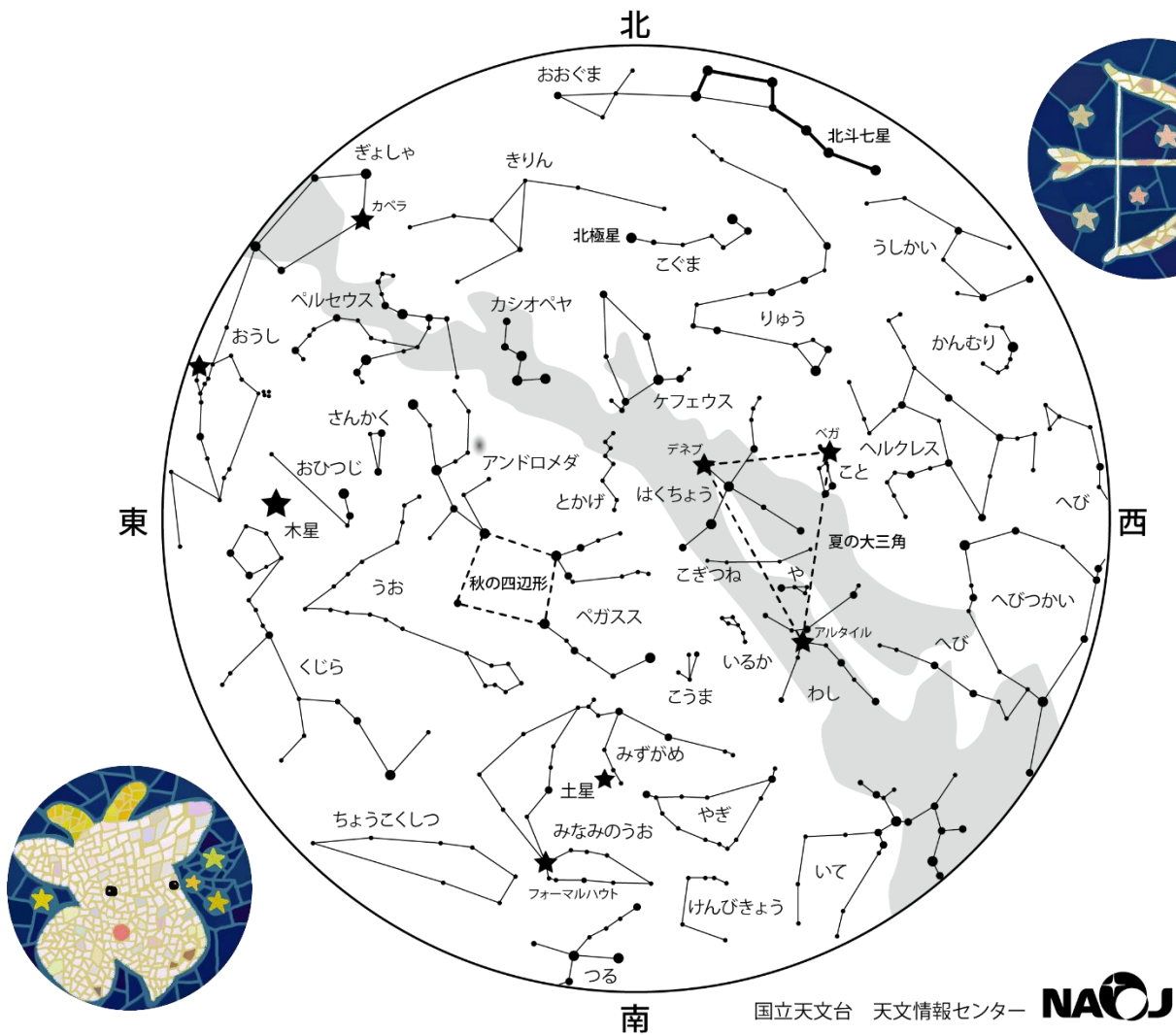
10月は、日の出前の東の空で金星が明るく輝いています。10日と11日には、金星に細い月が接近し、とても目を引く光景が見られます。この時の月は、光る部分がほぼ真下を向いており、これは秋の明け方に見られる細い月の特徴です。10日は、月は金星の左上に位置していますが、11日には、金星の左へと移動しています。また、金星のすぐ左上には「しし座」の1等星レグルスが見えます。日の出前の午前4時頃、ぜひ観察してみてください。



★ 10月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★★

★ プラネタリウムのお休み 10/2(月)、10(火)、16(月)、18(水)、23(月)、30(月)

10月上旬午後9時頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 10月上旬の主な天文現象

1日(日) 深夜、月と木星が接近	9日(月) 10月りゅう座流星群が極大
2日(月) おひつじ座 δ 星の食	10日(火) 金星とレグルスが接近
6日(金) 下弦	11日(水) 明け方、細い月と金星が並ぶ
8日(日) 寒露	15日(日) 新月

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 10/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 10月 3日(火) [見やすさ◎]	18:35 北西 ~ 18:39 東
◇ 10月 4日(水) [見やすさ○]	19:24 西北西 ~ 19:26 南西
◇ 10月 5日(木) [見やすさ◎]	18:35 西北西 ~ 18:40 南南東
◇ 10月 6日(金) [見やすさ◎]	17:46 北西 ~ 17:52 南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。